

# 高等教育機関での多読授業の評価方法<sup>1</sup>

## A Method of Extensive Reading Assessment in the Higher Education Classroom

小野寺 進\*

Susumu ONODERA

### 要 旨

本稿は、試験やレポートなどによる評価方法ではなく、多読活動のみによる評価方法と評価表を提案するものである。英語多読は、学習者がスピードなどを重視しながら大量の英文を読み、リーディングに対する自信をつけるための主体的学習法のひとつである。高等教育機関などにおいて評定を出す場合、理解力や表現力を測るための定期試験の実施やレポートを課すことが多い。しかし、本来多読は個人の興味や関心のある教材を読む主体的学習であり、多読後の課題などを最小限にすることが望ましいため、試験やレポートなどによる評価方法は相応しいとは言えない。今回、大学などの高等教育機関において、教員が学習者のパフォーマンスを評定するために、読みのレベルと読みのスピードおよび内容の理解度という3つ柱を基にした多読評価方法を考案し、その評価表を作成した。この多読評価表を活用することで、教員は学習者の多読活動を評価でき、一方、学習者は多読後のテストやレポートを課されることなく多読活動に取り組むことができる。

キーワード：多読、アクティブラーニング、主体的学習、評価方法、

### はじめに

近年、日本の大学などの高等教育機関において英語多読を取り入れるところが増えつつある<sup>1</sup>。しかし、大学の90分のレギュラークラス全体での多読は、大量の教材を揃え、単位を出すための評価方法を確立しておく必要があるため、実施が困難であると考えられる。また仮に実施するとしても、授業の一部として行われることが多い<sup>2</sup>。今日、英語（外国語）が必修教科となった小学校高学年から中学校、高校においては、学習指導要領に基づく授業展開が求められるため<sup>3</sup>、英語リーディングの授業をすべて多読に割り当てることは殊更難しいため、藤井（2015）や大倉（2017）などが実践報告しているように、リーディング授業の一部として多読を取り入れ、生徒の英語力向上に効果をあげているところが多い。

以前、大学の専門科目の一つとして多読授業を展開した経験から<sup>4</sup>、Onodera（2018）において、ハワイ大学のRichard R. Day博士にアドバイスを求め、その成果を多読授業の方法として発表した。90分のレギュラークラスで行う多読授業の方法としては、(1) 事前に同一の多読テキストを読んだ上で、90分の授業でその内容に関してディスカッションをするものと、(2) 90分の授業時間内に自分の好きな多読

<sup>1</sup> 本稿は日本多読学会2018年会（8月5日於東京工業高等専門学校）にて口頭発表したものに、修正・加筆を施したものである。

\* 弘前大学人文社会科学部

Faculty of Humanities and Social Sciences, Hirosaki University

テキストを選択しただけすら読むだけというものである。(1)は同一テキストを使用するので教員の観点から学生の指導をコントロールしやすい多読授業で、(2)は自分で読むテキストを選択するので学生主体の多読授業である。どちらにしても多読を学生の主体的活動であると規定するならば、その評価方法もそれに準じたものとなる。

レギュラークラスでGraded Readers (GR) を用いた英語多読を実施した時の評価方法として、これまでOxford Bookworms (OBW) の巻末に付いているアクティビティーをベースに試験問題の作成と評価を行ってきた。その評価方法に関して、Day博士からその評価方法は通常の英語リーディングのものであるとの指摘を受けた (Day, 2010)。そこで英語多読の基本的考え方に立ち戻り、学習者のリーディングパフォーマンスだけで評価できるよう検討し直した。

以下はDay (2002) が提唱する英語多読の10原則である。この原則は英語多読が学習者の主体的活動に基づくことから、筆者は評価方法を検討する際の指針とした。

1. The reading material is easy.
2. A variety of reading material on a wide range of topics must be available.
3. Learners choose what they want to read.
4. Learners read as much as possible.
5. The purpose of reading is usually related to pleasure, information and general understanding.
6. Reading is its own reward.
7. Reading speed is usually faster rather than slower.
8. Reading is individual and silent.
9. Teachers orient and guide their students.
10. The teacher is a role of a reader.

(Day, 2002, pp.137-140より抜粋、下線は筆者が追加した)

この原則の根幹は3番、5番および6番の下線で示した箇所にあると言っても良い。多読は学習者が自分の読みたいものを選ぶという主体的なものであり、その目的は楽しむことであり、加えて読むことそれ自体が報酬ということになる。当然のことながら、多読が学習者の主体的活動とすれば、試験で学習者の評価を定めることは多読の本質から逸脱しているとも言える。そこで試験を実施せずに学習者の英語多読活動を評価する方法が必要であると考えた。

## 評価方法

英語多読における評価方法として、読んだ内容の要約やプレゼンテーション、読書量、内容理解度テスト、学期末テスト、TOEICや英検などの外部テストなどを利用することが考えられてきた (高瀬, 2010, pp. 200-207)。また多読指導者の多くが学習者の英語リーディング能力を判定するのに、Edinburgh Project on Extensive Reading (EPER) テストを用いてきた<sup>5</sup>。EPERテストとはエディンバラ・プロジェクトにおいて、もともと多読を始める学習者のレベルを測定するためのプレイメントテストとして開発されたクローズテストであるが、それを多読評価のテストとして利用されるケースが多い (赤尾, 2015)。多読の評価の現状や多読評価に用いるテストの実用性についてのアンケートに対する回答者25件のうち、24件で複数の評価方法を行っており、読書量を測る方法と外部テストを併用した評価がほとんどを占めていたということである (吉田, 2016, pp. 74-75)。しかしながら、学習者の負担となるような詳細な内容記述や感想および内容理解の確認のための試験が、学習者の多読への気軽な取り組みの妨げにもなる可能性もある。読後の時間を要する面倒な作業や試験といったものが、多読を継続し

ようという学習者のやる気を挫くかもしれない。多読を実施した上で、内容理解を確認するためのテストの実施は、多読のようなリーディングスキルの向上を測定するには相応しいかどうかといった疑問が残る。英語多読がアクティブラーニングであるとするなら、その評価法に添う必要がある。

評価においては、何を（評価対象）、誰が（評価主体）、いつ（評価時期）、どのように（評価方法）を考える必要がある（松下 & 石井, 2016, pp. 11-14）。英語多読の評価では、読書結果だけではなく読了に費やした時間や内容の理解度も評価対象となり、教員だけでなく学習者も評価主体となる。評価時期は、プロセスの途中の経過を見る形成的なもの、目標が達成されたことを確認する総括的なものとの組合せになる。また学習者の英文を読むパフォーマンスとその経過を記載した読書記録やポートフォリオを通して成長のプロセスを評価することができる。

英語多読活動は質と量の両面を評価するため数値化することが難しい。そのため質と量をまとめて評価するため、学習者の多読レベルの設定と学習者の読書スピードと内容理解度を基にした評価表を作成する必要がある。表の作成に当たっては、高等教育における学習者の多読レベルを設定するため、文部科学省（平成30年3月）の「各資格・検定試験とCEFRとの対照表」を参考にした。この対照表に基づき、CEFR換算でA2～B2レベルが大学の初級～上級レベル相当ならば、英検では準2級～準1級に、TOEICでは225～785となる。多読用図書GRのOBWとCambridge English Readers（CER）それぞれの到達レベルが初級ではStage（or Level）2と3、中級ではStage（or Level）3と4、上級ではStage（or Level）4と5が適切であると設定されている一方、多読を始める学習者にとって最初それぞれの到達レベルは難易度が高いと考えられるため、それぞれレベルを1段階下げたところから学習を始め、それから徐々に到達レベルまで上げることが妥当であることを実験・調査した。

## 調査の方法

大学で多読を実施する際のレベルとそれを基にした多読評価基準を設定するため、学習者の英語運用能力が上記の文部科学省の対照表および多読用図書の到達レベルに準じているかを確認した。学習者が楽に内容を掴める早さは1分間当たり100語（100wpm（word per minutes））が基本とされ、同レベルの本でwpmが130～150と続くようなら本のレベルを上げるとされている（高瀬, 2010, p. 33）。実験に使用する多読図書は非ネイティブ向けのGRであるOBWシリーズとCERシリーズを用いた。理由は他の多読図書と比べ、ロマンス、スリラー、推理など物語ジャンルがバラエティで偏りが少ないためである。

調査は、教養教育の英語中級の単位を取得した英語専攻ではない大学3年生と4年生に協力を求め、2016年後期には6名の学生に、2017年前期には7名の学生にそれぞれ15回にわたり多読リーディングを実施した。その時点で学生の英語レベルがどれくらいかを確認するために、すでに取得していた外部テスト（TOEIC, TOEFL, 英検）の結果を自己申告してもらった。2016年はTOEIC600点以上が3名、TOEFL490点以上が1名、英検2級以下が2名で、2017年はTOEIC500点以上が4名、英検準2級以下が3名であった。英語への関心が高い学生は大学入学後にTOEICやTOEFLを受験している一方、多少英語に関心があるものの留学などは考えていない学生は高校時代に英検を受けただけとのことであった。

2016年は教室外リーディング、2017年は教室内リーディングを実施した。年度によって学習場所を変えた理由は、前者の場合は時間や場所の制約がない状態で自由に読める環境にあり、また後者の場合は時間も場所の制約がある状態にし、読書環境の違いも多読活動に影響を及ぼすかどうかを比較調査するためでもある。両年共、毎回同一の多読図書を調査に使用することで、語彙や内容の差による不公平さを避けた。

## 調査の手順

### 2016年の場合

1. 毎週、半期10回にわたり共通の多読図書を学生に配布。学生は翌週まで自宅か図書館を利用して図書を読む。読後、読書記録に記入する。
2. OBWのStarterを1回につき2冊から読み始め、次いでOBWのStage 1（以下S1と省略）を2冊、CERのLevel 1（以下L1と省略）を2冊、OBWのS2を1冊、CERのL2を1冊、OBWのS3を1冊、CERのL3を1冊、OBWのS4を1冊、CERのL4を1冊と交互に徐々にレベルをあげて、合計12冊の読書スピードと理解度を調査する。Starterから始めた理由は、調査した学生にとって初めての多読活動だったので、練習を兼ねて多読に慣れてもらうことにある。

### 2017年の場合

1. 毎週、半期10回にわたり共通の多読図書を学生に配布。学生は教室内で90分の通常の授業と同じ時間内で読む。読後、読書記録に記入する。
2. 2016年度の調査より、全員多読活動初心者ではあるもののStarterのレベルは低すぎると判断し、1回につきCERのL1を2冊から読み始め、次いでOBWのS1を3冊、OBWのS2を2冊、CERのL2を1冊、OBWのS3を1冊、CERのL3を1冊、OBWのS4を1冊、CERのL4を1冊、OBWのS5を1冊と交互にレベルを上げて、合計13冊の読書スピードと理解度を調査する。

## 読書記録

高等教育における学習者の多読レベルと多読スピードを確認するために、学習者には毎回読後に以下の読書記録（reading records）に記録してもらった（Figure 1参照）。

Date: (dd/mm/yy) / / 20xx		Number _____		Name _____		
Book title	Level	Total words	Reading time	Level of understanding		
				50%	75%	90%
* What did you feel after reading the book?						
Very easy		Easy	Not easy	Hard		
* Comment on the book. (Multiple-choice)						
Interesting	Funny	Boring	Humorous	Amazing	Surprising	Not interesting

Figure 1. 読書記録 (reading records).

ここでは読んだ日付、タイトル、レベル、総ワード数、読了時間、理解度、そして難易度や感想などを選択肢から選んでもらう。それは英語の語彙の問題だけでなく、個人の興味次第で高いレベルのもので易しかったり、また低いレベルのものでも理解が難しかったりする場合があるためである。理解度（50% 75% 90%）、難易度（Very easy Easy Not easy Hard）そして感想（Interesting Funny Boring Humorous Amazing Surprising Not interesting）を選択肢にしたのは、記録を簡単にすることで学生に面倒であるとの印象を与えないためでもある。また理解度を3つのパーセンテージに分類したのは、学習者の理解の度合いを調べるため、多読での理解の判断基準は75%以上とされ、50%程度では内容が十分理解できていないと判断するためである。また50%未満の場合は、その多読図書を読むレベルに達していないことになる。

## 調査結果

読書記録を基に、学生のリーディングスピードと理解度およびスピードと理解度の関係について、2016年の教室外リーディングと2017年の教室内リーディングを以下の表1と表2にまとめた。ここでは、全体的なスピードと理解度に加え、中級レベルに相応しいレベル3と4だけのスピードと理解度も併記した。中級レベルを軸とした評価表を作成する上で必要だからである。

表1 学生のリーディングスピードと理解度 (2016年教室外リーディング)

	平均wpm(全体)	理解度(全体)	*SxU値(全体)	平均wpm(3&4)	理解度(3&4)	*SxU値(3&4)
学生A (TOEIC 710)	167.083	87.50%	146.198	151.500	86.25%	130.669
学生B (TOEIC 650)	133.417	81.25%	108.401	116.000	78.75%	91.350
学生C (TOEIC 630)	119.167	75.80%	90.329	137.250	62.50%	85.781
学生D (TOEFL490)	141.833	81.25%	115.239	145.500	75.00%	109.125
学生E (英検2球)	115.583	68.75%	79.463	121.750	68.75%	83.703
学生F (英検準2級)	134.000	76.25%	102.175	119.250	75.00%	89.438
平均	135.181	78.47%	106.968	131.875	74.37%	98.343

Note. 使用GR (OBW St~S4, CER L1~L4). \*S x U値: スピード (Speed) と理解度 (Understanding) を掛け合わせた数値.

表2 学生のリーディングスピードと理解度 (2017年 教室内リーディング)

	平均wpm(全体)	理解度(全体)	*SxU値(全体)	平均wpm(3&4)	理解度(3&4)	*SxU値(3&4)
学生A (TOEIC 605)	152.923	79.6%	121.727	138.75	78.75%	109.266
学生B (TOEIC 565)	129.538	77.6%	100.521	133.50	75.00%	100.125
学生C (TOEIC 520)	122.000	62.7%	76.494	113.75	68.75%	78.203
学生D (TOEIC 710)	144.308	83.1%	119.920	154.50	78.75%	121.669
学生E (英検準2級)	122.000	81.2%	99.064	118.50	76.25%	90.356
学生F (英検準2級)	145.077	79.2%	114.901	162.50	76.25%	123.906
学生G (英検3級)	139.923	80.0%	111.938	144.25	75.00%	108.188
平均	136.538	76.2%	106.366	133.68	75.54%	104.530

Note. 使用GR (OBW S1~S5, CER L1~L4). \*S x U値: スピード (Speed) と理解度 (Understanding) を掛け合わせた数値.

中級相当のレベル3と4で100wpm以上のリーディングスピードが内容を掴める適切な基本レベルであるとすれば、教室外と教室内の学生の多読リーディング力はそのレベルを十分満たしていると考えられる。スピードだけ見れば、2016年には学生Aと学生Cと学生Dが、2017年には学生Aと学生Bと学生Dと学生Fと学生Gが、さらに1段上の上級レベルに相応しいかのように思える。しかし、このスピードに理解度を掛け合わせ、基本レベルを $100\text{wpm} \times 75\% = 75$ とすれば、2016年の学生Cは中級レベルを満たすものの、その上の上級レベル ( $130\text{wpm} \times 75 = 97.5$ ) を満たせないことになる。多読活動においては多読スピードだけでは不十分で、同時に内容も十分に理解することが求められるためである。

表3 レベル (headwords) とリーディングスピードとの関係 (OBWの場合)

level \ wpm	2016					2017				
	~99	~129	~159	160~	Total	~99	~129	~159	160~	Total
Starter (250)	1	8	2	1	12	0	0	0	0	0
S1 (400)	2	5	3	2	12	0	11	8	2	21
S2 (700)	1	2	3	0	6	0	5	9	0	14
S3 (1000)	0	3	3	0	6	0	4	3	0	7
S4 (1400)	0	4	2	0	6	1	2	3	1	7
S5 (1800)	0	0	0	0	0	2	3	2	0	7
Total	4	22	13	3	42	3	25	25	3	56

Note. OBW St = Starter, S1 = Stage 1, S2 = Stage 2, S3 = Stage 3, S4 = Stage 4, S5 = Stage 5.

表4 レベル (headwords) とリーディングスピードとの関係 (CER)

level \ wpm	2016					2017				
	~99	~129	~159	160~	Total	~99	~129	~159	160~	Total
L1 (400)	0	4	2	6	12	0	6	6	2	14
L2 (800)	0	2	3	1	6	0	1	5	1	7
L3 (1300)	0	3	1	2	6	0	1	3	3	7
L4 (1900)	0	4	2	0	6	1	1	4	1	7
Total	0	13	8	9	30	1	9	18	7	35

Note. CER L1 = Level 1, L2 = Level 2, L3 = Level 3, L4 = Level 4.

表3と表4は、同じ調査で得た結果をOBWとCERのそれぞれのレベルに応じたheadwords（初出語）毎に、学生のリーディングスピードを示したものである。表1と表2から得られたリーディングスピードと理解度の結果から、英語中級レベルの多読図書レベルとスピードとの整合性は確認できたが、表3と表4にあるように、自身の英語レベルより明らかに下のレベルの多読スピードに到達していないケースが見られた。これは特にOBWだけに見られた特徴で、アンケートに「物語の終わり方がとてもわかりにくかった」、「情景がイメージしにくく、難しかった」とか「人名が沢山出てきてわかりにくかった」など内容的に理解しにくかった理由が挙げられる。これは多読図書の選定の問題とも言うことができ、今後の課題にもなるだろう。また「ミステリーが苦手」とか、「場面がコロコロ変わるので読みにくかった」などのアンケート回答から、英語力だけの問題というよりは、日頃から読書に親しんでいるかどうか、多読活動に大きく影響しているかも知れない。

さらに表3から、両年度共にOBWのS4とCERのL4を比較すると、レベルは同じであるがheadwordsが500語も増加しているのにリーディングスピードがほとんど同じであること、2017年度のCERのL5とOBWのS5を比較すると、両方のheadwordsがほとんど同じなのに、後者のリーディングスピードが落ちていることが読み取れる。これは前者に比べ、後者の場合は「内容がわかりにくい」と「量（総語彙数）が多かった」ためとあった。

## 英語多読評価表

以上のことから、英語多読評価表の初級レベルと中級レベルを作成した（表7）。これは2016年と2017年に実施した実験を基に、1コマ90分全部を多読授業に割り当てた場合に初級者および中級者が時間内で読み終えることを想定したものである。表5と表6にあるように、学習者は毎回読んだGRについて、理解度（50%、75%以上、90%）に応じたheadwordsの箇所にチェックをし、それを15回集計するだけでグレード（Grade）が決定する。

表5 初級レベル (TOEIC score 400~500) : OBW S2~S3, CER L2~L3) 各総ワード数11000words以下

理解度	headwords 700	headwords 800	headwords 1000	headwords 1300
50%	<input type="checkbox"/> OBW Stage 2	<input type="checkbox"/> CER Level 2	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3	<input type="checkbox"/> CER Level 3
75%	<input type="checkbox"/> OBW Stage 2	<input type="checkbox"/> CER Level 2	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3	<input type="checkbox"/> CER Level 3
90%	<input type="checkbox"/> OBW Stage 2	<input type="checkbox"/> CER Level 2	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3	<input type="checkbox"/> CER Level 3

表6 中級レベル (TOEIC score 500~750) : OBW S3~S4, CER L3~L4) 各総ワード数12000words以下

理解度	headwords 1000	headwords 1300	headwords 1400	headwords 1900
50%	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3	<input type="checkbox"/> CER Level 3	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4	<input type="checkbox"/> CER Level 4
75%	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3	<input type="checkbox"/> CER Level 3	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4	<input type="checkbox"/> CER Level 4
90%	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3	<input type="checkbox"/> CER Level 3	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4	<input type="checkbox"/> CER Level 4

表7 英語多読評価表（省略版モデル）15回リーディング

	F (Failure)	C Grade	B Grade	A Grade	S Grade
初級	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 2回（50%） CER Level 2 1回（50%）	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 4回（75% 以上） 1回（50%） CER Level 2 2回（90% 以上） 3回（75% 以上） OBW Stage 2 5回（75% 以上）	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 5回（75% 以上） CER Level 2 5回（75% 以上） OBW Stage 2 5回（75% 以上）	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 10回（75% 以上） CER Level 2 5回（75% 以上）	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 15回（75% 以上） or <input type="checkbox"/> CER Level 3 15回（75% 以上）
中級	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 2回（50%）	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 3回（75% 以上） 1回（50%） CER Level 3 4回（75% 以上） OBW Stage 3 7回（75% 以上）	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 4回（75% 以上） CER Level 3 4回（75% 以上） OBW Stage 3 7回（75% 以上）	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 10回（75% 以上） CER Level 3 5回（75% 以上） or <input type="checkbox"/> CER Level 4 10回（75% 以上） OBW Stage 3 5回（75% 以上）	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 15回（75% 以上） or <input type="checkbox"/> CER Level 4 15回（75% 以上）

Note. この表は省略版であり、各グレードのバリエーションに関しては Appendix を参照。

## まとめ

この評価方法における問題は、理解度が学習者の自己申告にあることである。教員は学習者が内容を理解しているかどうか不安があるものの、学習者の多読活動を信頼することが大切である。一方、学習者は正直に理解度を申告することで、自己の英語リーディング能力を正しく把握できる。この方法を実行するにあたっては、多読授業を必修として全員に課すのではなく、選択として自ら進んで英語リーディング能力を向上させようとする学習者のために開講される必要がある。教員が学習者にテストを実施して多読の内容理解度を測ることや、外部テストを課してリーディング力を測定するのは、評定を出すための有効な手段であるかもしれない。しかし、学習者の側から見れば、最終的にテストがあることがわかれば、気軽に多読活動に取り組むことを躊躇し、継続的に実行することが困難になる可能性もある。誰でも、いつでも、手軽に効果的な英語学習ができる多読活動を推進するには、ただひたすら読むだけで評価ができるこの評価表は有効な手段となりうるかもしれない。

今回の英語多読評価表は大学の初級レベルと中級レベルに限定して作成した。上級レベルでも同じように作成できるが、使用する多読図書レベル5の総語彙数が15,000語～20,000語になり、教室内リーディングで90分以内にGR一冊を読了するには極めて難しい。ただし、教室外リーディングなら時間的制約がないため作成可能である。さらに、中学や高校といった下位レベルへの応用については、そのレベルに適した多読図書さえ選定すれば、この多読評価表を基盤として作成することは十分可能である。

調査では、全体で13名しかデータを得ることができなかったため、少ない母数で統計的に妥当性を数値化することができなかった。今後、機会があれば十分なデータを得た上で再度検証したい。

## 謝辞

本研究はJSPS 科研費JP16K13252の助成を受けたものである。

## 注

- <sup>1</sup> 1990年代後半に電気通信大学の酒井邦秀が多読で学ぶSSS英語学習法を実施され、『英語教育』（大修館書店）に2004年の2月号に100万語多読の特集が掲載されて以来、中学校、高校、大学といった多くの教育機関で多読による英語学習が取り入れられるようになった。また、2004年1月には日本多読学会が設立され、近畿大学や関西大学をはじめとする多くの大学で授業として実施されるようになり、この10年毎年学会で実践内容が報告されている。実践報告に関しては日本多読学会（Japan Extensive Reading Association）HP（<http://jera-tadoku.jp>）を参照。
- <sup>2</sup> 大学での授業内多読の実施例として、神戸国際大学や関西大学などが過去一コマ90分を使って多読を実施（魚住 & 高瀬, 2016）したことを除くと、石巻専修大学（大縄, 2018）、常葉大学（良知 & 柴田, 2016）、武蔵野大学（金子, 2015）、大阪電気通信大学（竹山, 2014）などをはじめとする多くの大学では授業の一部に多読を取り入れていることが多い。
- <sup>3</sup> 文部科学省による『高等学校学習指導要領（平成30年）』および『中学校学習指導要領（平成29年告示）』の外国語編英語編において、英語学習がコミュニケーションやスピーチ、プレゼンテーションなどに重点が置かれているものに改定されている。[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/1384661.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm)
- <sup>4</sup> Onodera (2011) では、過去において授業で実践した英語多読を基にその方法と実践結果を考察した。
- <sup>5</sup> 現在EPERテストはExtensive Reading Foundationに移管されているが、一般公開されていない。

## 引用文献

- 赤尾美和. (2015) 多読と英語力伸びの関連性—大学再履修クラスにおける多読授業. 『日本多読教育学会紀要』, 7号, pp.39–50.
- 魚住香子 & 高瀬敦子. (2016) 多読を成功に導く要因—意識調査と読書記録の精査から—. 『日本多読教育学会紀要』, 9号, pp. 25–42.
- 大倉史子. (2017) 生徒は多読をどのようにとらえたか. 『日本多読教育学会紀要』, 10号, pp.59–71.
- 大縄道子. (2018) 英語多読を成功させる学習者の特徴—EPER. 読書記録. インタビューの分析から. 『日本多読教育学会紀要』, 11号, pp. 17–43.
- Onodera, S. (2011). Method and Practice of Extensive Reading: A Case Study at Hirosaki University. *21<sup>st</sup> Century Education Forum* Vol. 6, pp.49–57.
- Onodera, S. (2018). How to Practice Extensive Reading in the College Classroom. *2018: Extensive Reading World Congress Proceedings/Journal of Extensive Reading*, pp.139–144. ([jalt-publications.org](http://jalt-publications.org)).
- 金子敦子. (2015) 大学グローバル・コミュニケーション学科における英語多読指導の試み. 『日本多読教育学会紀要』, 8号
- 良知恵美子 & 柴田里美, (2016) 大学英語多読教育における False Beginners への個別支援のあり方. 『日本多読教育学会紀要』, 9号, pp. 43–57.
- 高瀬敦子. (2010) 『英語多読・多聴指導マニュアル』. 東京：大修館書店.
- 竹山友子. (2014) 大阪電気通信大学における英語多読プログラム「リーディングシャワー」. 『日本多読教育学会紀要』, 7号, pp.47–55.
- Day, R. (2002). Top ten principles for teaching extensive reading. *Reading in a Foreign Language*, 14(2), pp136–141.
- Day, R. (2010). Personal interview on extensive reading at the University of Hawaii at Manoa. 4 Feb.
- 藤井数馬. (2015) 多読と学校図書館への影響—多読指導の「ゼロ段階」として. 『日本多読教育学会紀要』, 8号, pp.3–15.
- Bell, T. (2001). Extensive Reading: Speed and Comprehension. *The Reading Matrix*, Vol.1, No.1, pp1–7. Retrieved from <http://www.extensivereading.net/er/online.html>



松下佳代 & 石井英真 (編著). (2016) 『アクティブ・ラーニングの評価』. 東京：東信堂.

文部科学省 (2018) 『各資格・検定試験とCEFRとの対照表』 Retrieved from [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/30/03/\\_icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610\\_1.pdf#search=%27TOEICとCEFRn%27](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/30/03/_icsFiles/afieldfile/2019/01/15/1402610_1.pdf#search=%27TOEICとCEFRn%27)

吉田弘子. (2014) 多読授業におけるEPERテスト活用とデータ分析のすすめ. 『日本多読教育学会紀要』, 7号, pp. 39–46.

吉田弘子. (2016) 多読評価に関するアンケート調査結果. 『日本多読教育学会紀要』, 9号, pp. 73–83.

Appendix 英語多読評価表 (初級レベル15回リーディング例)

F (Failure)	Grade C	Grade B	Grade A	Grade S
<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 2回 (50%) CER Level 2 1回 (50%)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 4回 (75% 以上) 1回 (50%) CER Level 2 2回 (90%) 3回 (75% 以上) OBW Stage 2 5回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 5回 (75% 以上) CER Level 2 5回 (75% 以上) OBW Stage 2 5回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 10回 (75% 以上) CER Level 2 5回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 15回 (75% 以上) or <input type="checkbox"/> CER Level 3 15回 (75% 以上)
<input type="checkbox"/> CER Level 2 2回 (50%)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 4回 (75% 以上) 1回 (50%) CER Level 2 5回 (75% 以上) OBW Stage 2 5回 (90%)	<input type="checkbox"/> CER Level 3 4回 (75% 以上) CER Level 2 6回 (75% 以上) OBW Stage 2 5回 (90%)	<input type="checkbox"/> CER Level 3 10回 (75% 以上) CER Level 2 3回 (75% 以上) OBW Stage 2 2回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 10回 (75% 以上) CER Level 3 5回 (90%)
<input type="checkbox"/> OBW Stage 2 1回 (50%)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 3回 (75% 以上) 2回 (50%) CER Level 2 3回 (90%) 2回 (75% 以上) OBW Stage 2 5回 (90%)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 4回 (75% 以上) CER Level 3 3回 (75% 以上) OBW Stage 2 3回 (75% 以上) CER Level 2 5回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 8回 (75% 以上) CER Level 2 4回 (90%) OBW Stage 2 3回 (90%)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 10回 (75% 以上) CER Level 3 3回 (90%) OBW Stage 2 2回 (90%)

## 英語多読評価表 (中級レベル15回リーディング例)

F (Failure)	Grade C	Grade B	Grade A	Grade S
<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 2回 (50%)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 3回 (75% 以上) 1回 (50%) CER Level 3 4回 (75% 以上) OBW Stage 3 7回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 4回 (75% 以上) CER Level 3 4回 (75% 以上) OBW Stage 3 7回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 10回 (75% 以上) CER Level 3 5回 (75% 以上) or CER Level 4 10回 (75% 以上) OBW Stage 3 5回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 15回 (75% 以上) or <input type="checkbox"/> CER Level 4 15回 (75% 以上)
<input type="checkbox"/> CER Level 3 2回 (50%)	<input type="checkbox"/> CER Level 4 3回 (75% 以上) CER Level 3 4回 (75% 以上) 1回 (50%) OBW Stage 3 7回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> CER Level 4 3回 (75% 以上) CER Level 3 4回 (75% 以上) OBW Stage 3 2回 (90%) 6回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 5回 (75% 以上) CER Level 3 5回 (75% 以上) OBW Stage 3 5回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 8回 (75% 以上) CER Level 4 7回 (75% 以上)
<input type="checkbox"/> OBW Stage 3 1回 (50%)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 2回 (75% 以上) CER Level 3 4回 (75% 以上) OBW Stage 3 9回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 3回 (75% 以上) CER Level 3 3回 (75% 以上) OBW Stage 3 4回 (90%) 5回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> CER Level 4 4回 (75% 以上) CER Level 3 4回 (75% 以上) OBW Stage 3 2回 (90%) 5回 (75% 以上)	<input type="checkbox"/> OBW Stage 4 7回 (75% 以上) CER Level 4 8回 (75% 以上)